

## 「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

### ＜本年度の学力向上基本方針＞

すすんで勉強し、生き生きと学び合う子の育成  
～「わかる、できる、かかわる」ことで学ぶ喜びを実感できる授業を目指して～

### ＜本年度の学力向上策＞

- ・ 尾間木スタンダード（算数編）の実践により、生き生きと学ぶ児童を育てる。
  - ①指導者を招いて研究授業を行い、授業実践を重ねる。
  - ②授業の進め方、ノート指導等について全教員で共通理解を図り、授業のユニバーサル化を進める。
- ・ 学校課題研修（体力向上）の取組の中で、尾間木スタンダード（体育編）の実践により学ぶ喜びを児童に味わわせる。その喜びを他教科にも広げていくことで、学力向上につなげていく。
- ・ G S 専科教員を中心にG S 推進委員会を定期的を開催し、業前のG S タイムの充実を図るとともに、グローバルな人材の育成に励む。
- ・ 学期ごとの「よい授業」に関するアンケート調査結果をもとに、各教員が自分の授業を分析し、4つの因子を踏まえた学習活動の工夫に努める。
- ・ 中学校との連携を強化する。
  - ①家庭学習の充実を図るために、中学校と同じ時期の各学期末に「家庭学習週間」を設け、実施する。児童が主体的に学習に取り組む姿勢を育む。
  - ②落ち着いた環境での学習につなげるため、中学校区での「学校生活の手引き」の作成を進める。

### ＜本年度の振り返り＞

- ・ 学校評価の結果を見ると、「授業がわかりやすい」は、「はい」「どちらかといえばはい」の割合が保護者・児童とも約95%であった。尾間木スタンダード（算数編・体育編）の実践、ユニバーサルデザインの視点やICTを取り入れた授業の推進、「よい授業」4つの因子を踏まえた学習活動の工夫・改善を行った成果と考える。
- ・ G S 推進委員会を定期的を開催し、G S タイムやG S 科の授業の充実が図れた。
- ・ 「家庭学習週間」の実施や、取り組み状況の家庭へのお知らせなどで、児童が主体的に学習に取り組む姿勢を育むことができた。中学校との連携の強化に関しては、中学校区での「学校生活の手引き」が完成し、来年度は児童に配付予定である。